

広報資料
(経済同時)

平成 28 年 5 月 13 日
京 都 市
産 業 観 光 局
(担当：中小企業振興課 TEL222-3329)
総 合 企 画 局
(担当：総合政策室主幹・市民・地域担当 TEL222-3178)
(公財)京都高度技術研究所
(担当：京都府ソーシャルイノベーション研究所(SIO))

～人を巻き込む「モテる」公務員と未来を創る！～
ソーシャル・イノベーション・サミット 2016 in 京都の開催について

京都市及び公益財団法人京都高度技術研究所では、市民、企業、NPO 大学などの多種多様な組織や個人が、京都で社会的課題の解決に挑戦し、過度の効率性や競争原理とは異なる価値観を広める「京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」を推進しています。

昨年度に引き続き開催する「ソーシャル・イノベーション・サミット」。今回は、地域や企業など多様な人々を巻き込みながら、わが町を活性化しようと取り組んでいる全国の公務員が京都に一堂に集し、ともに切り拓く未来について語り合いますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 1 開催日 平成 28 年 8 月 27 日 (土) 午後 1 時～午後 6 時
(交流会 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分)
- 2 会 場 同志社大学 今出川校地 烏丸キャンパス 志高館
(所在地：京都市上京区烏丸通上立売上る相国寺門前町 6 4 7-20)
- 3 対 象 ソーシャル・イノベーションに取り組んでいる、或いは、わが町のためにあと一步を踏み出したいと考える公務員や企業や市民の皆様をはじめ、どなたでも御参加いただけます。
- 4 参加費 無料 (※交流会の参加費：3,500 円)
- 5 定 員 200 名
(交流会 (立食形式) は 100 名)
※先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。
- 6 申込期限 平成 28 年 8 月 12 日 (金)

7 プログラム

13:00-13:10 開会挨拶 京都市長 門川大作

同志社大学大学院総合政策科学研究科 研究科長

政策学部 学部長・教授 川口章

13:10-13:30 成果発表「同志社から生まれるプレミア・ソーシャル・イノベーション」
(同志社大学ソーシャル・ウェルネス研究センター)

13:30-14:50 パネルディスカッション「「モテる公務員」と未来を切り拓く！」

☞全国で多様な人を巻き込みながらソーシャル・イノベーションを創出している「モテる公務員」を招き、社会の課題を自身の課題として捉え解決に向けたアクションを起こすまでの仕掛けを紐解きます。

(パネリスト)

えんじょうにゆうすけ
■円城寺雄介氏 (佐賀県庁職員。全国初となる救急車での iPad 活用、ドクターヘリ導入などで救急医療改革に取り組む。著書「県庁そろそろクビですか？」(小学館) は異例のベストセラーで現在第3版が発売中。)

やまざかひ
■山田 崇氏 (塩尻市役所職員。地域活性化伝道師。空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト nanoda 代表。地域に飛び出す公務員アワード2013 大賞受賞。元ナンパ師の市職員。)

おおむらのぶよし
■大室悦賀 (元府中市役所職員。京都市ソーシャルイノベーション研究所所長，京都産業大学経営学部教授)

(モデレーター)

いのうえひでゆき
■井上英之 (京都市ソーシャルイノベーション研究所アドバイザー，慶應義塾大学大学院特別招聘准教授，一般社団法人 INNO Lab International 共同代表)

➤【資料】パネリスト プロフィール

15:00-18:00 分科会

☞参加者の皆様の興味に応じたテーマの分科会に参加いただきます。

(予定している分科会テーマ)

■「地域や企業とともに社会的課題の解決に取り組む公務員」

■「ソーシャル・イノベーションの創出に挑むチーム」

■「プライベートで様々な活動に取り組む半公務員半 X」等約8テーマ

18:30-20:30 交流会 (立食形式) ※参加費 3,500 円

※分科会のゲストスピーカー及び分科会のテーマ，交流会会場等は京都市ソーシャルイノベーション研究所の HP (<http://social-innovation.kyoto.jp/>) 等で随時お知らせします。

8 申込方法 次のいずれかの方法でお申し込みください。

(1) 京都市ホームページ専用フォーム

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000198015.html>

(2) 申込書をメールまたはFAXで下記問合せ先へお送りください。

※交流会にお申し込みいただいた方には、別途、請求書を送付いたします。

9 主催等 主催 京都市、公益財団法人京都高度技術研究所（京都市ソーシャルイノベーション研究所（SILK））

企画 モテる公務員サミット実行委員会

共催 同志社大学ソーシャル・ウェルネス研究センター

後援 同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科

10 問合せ先 京都市産業観光局商工部中小企業振興課（担当 仲筋，小林）

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

TEL075・222・3329, FAX075・222・3331, E Mail アドレス chushokigyo@city.kyoto.lg.jp

<参考>

○ソーシャル・イノベーション・サミットについて

・地域や社会における課題に対し、革新的なアプローチで効果的・持続的なソーシャル・イノベーションに取り組まれている方々に全国からお集まりいただき、東京一極集中の打破や地方創生を推進するネットワークの形成に取り組むために開催しています。

・2015年度（平成27年度）は平成27年12月に京都で開催しました。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000193973.html>

・2016年度（平成28年度）は平成28年8月に京都で開催するほか、秋季に水俣市でも開催する予定です。

○モテる公務員サミット実行委員会について

・2015年度（平成27年度）に実施した京都市職員向けの研修に参加した有志の若手職員により、多様なセクターと協働しわが町の活性化に取り組む「モテる」公務員を招き、ノウハウを共有するとともに、互いの壁を乗り越え、新たな取組の仲間を増やすきっかけをつくるサミットの開催を目指し結成されました。

パネリスト プロフィール

円城寺 雄介 (えんじょうじ ゆうすけ)

佐賀県職員

1977 年、佐賀県出身。立命館大学経済学部卒業後、2001 年、佐賀県庁入庁。全国初となる救急車での iPad 活用、ドクターヘリ導入などで救急医療改革に取り組み、総務省 ICT 地域マネージャーとして変革を全国に広げている。MCPC アワード 2012 グランプリ・総務大臣賞、全国知事会先進政策大賞、マニフェスト大賞 2013 優秀賞などを受賞。公務員から政界までネットワークも広く、講演活動なども全国で積極的に行っている。現在は歴史研究と共に、ドローンなど最新技術活用にも取り組んでいる。

山田 崇 (やまだ たかし)

長野県塩尻市職員、地域活性化伝道師

1975 年塩尻市生まれ。千葉大学工学部応用化学科卒業。

「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみないと商店街の現状・課題はわからない」と、地元塩尻の“大門商店街”に空き家を借りて可能な限り滞在し、毎朝降りてしまったシャッターを開ける。そんな空き家／空き店舗を活用した「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト nanoda」を 2012 年より開始。「目の前のひとりを救えない人に、みんなは救えない。」と、目の前の人を助けようとローカルな視点で町おこしに取り組む。

「公務員が元気なら、地域は絶対元気になる」と、その熱に巻き込まれたメンバーと共に、nanoda を拠点に多様な活動を実施。人と人、人と地域をつなげる。

2014 年「地域に飛び出す公務員アワード 2013」大賞を受賞。

大室 悦賀 (おおむろ のぶよし)

京都市ソーシャルイノベーション研究所長、京都産業大学経営学部教授、元府中市職員

著書：『ソーシャル・イノベーション』『ソーシャル・ビジネス：地域の課題をビジネスで解決する』『ケースに学ぶソーシャル・マネジメント』『ソーシャル・エンタープライズ』『NPO と事業』など。社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスをベースに NPO などのサードセクター、企業セクター、行政セクターの 3 つのセクターを研究対象として、全国各地を飛び回り、アドバイスや講演を行っている。

井上 英之 (いのうえ ひでゆき)

京都市ソーシャルイノベーション研究所アドバイザー, イノラボ・インターナショナル 共同代表 慶應義塾大学 特別招聘准教授

外資系経営コンサルティング会社勤務後, 2001 年より NPO 法人 ETIC. にて, 日本初のソーシャルベンチャー向けプランコンテスト「STYLE」を開催するなど, 若手を中心とした社会起業家の育成・輩出に取り組む。2003 年, 社会起業向け投資団体「ソーシャルベンチャー・パートナーズ (SVP) 東京」を設立。2005 年より, 慶応大学 SFC にて「社会起業論」などの, 実務と理論を合わせた授業群を開発。2009 年, 世界経済フォーラム「Young Global Leader」に選出。2012～2014 年, 日本財団国際フェローとして, 米国スタンフォード大学 (Center for Philanthropy and Civil Society), クレアモント大学院大学に客員研究員として滞在した。近年は, マインドフルネスとソーシャルイノベーションを組み合わせたリーダーシップ開発に取り組む。